

なし黒星病の防除を徹底しましょう！

当センターのなし巡回調査（6月1～10日）において、黒星病の発生ほ場率が平年よりやや高くなっています（ほ場率52% 平年比147% 前年比740%）。今年は、なしの開花期に低温が続き、降雨日が多かったため感染が拡大したと考えられ、果実の発病も早く見られる傾向があります。

気象予報（6月11日発表）では、向こう1か月は日照時間や降水量が平年並み、気温は高めに推移する見込みですが、既発生ほ場では今後の発生増加に十分な注意が必要です。



写真1 果そう基部の病斑



写真2 葉の病斑

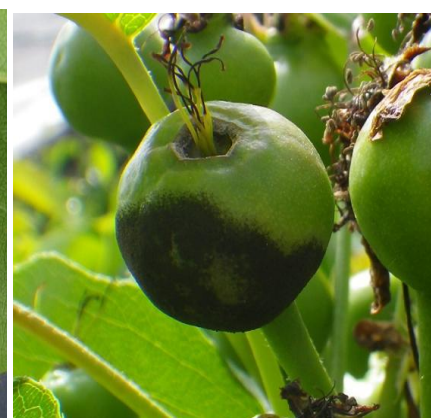


写真3 果実の病斑

◎防除対策

- 1 発病した果そう基部、葉、果実は、2次伝染源となるので、見つけ次第除去してほ場外に持ち出し、埋却等により適切に処分する。
- 2 現在、葉に発生が多く見られるほ場では、治療効果の期待できる、ストロビードライフロアブル、フルーツセイバー等を6月中旬から7月中旬に散布する（表1）。
- 3 未発生ほ場でも、ほ場内をよく観察し、発生初期の防除に努める（黒星病は感染から発病までに15日程度の潜伏期間がある）。

表1 なし黒星病に登録のある主な防除薬剤（6月中旬～7月中旬）（令和2(2020)年6月16日現在）

農薬の名称	希釈倍数	使用時期	使用回数	有効成分名	RACコード※3
ストロビードライフロアブル	3,000倍	収穫前日まで	3回以内	クレソキシムメチル	F:11
フルーツセイバー	1,500～3,000倍	収穫前日まで	3回以内	ペンチオピラド	F:7
ベルコートフロアブル	1,500倍	収穫14日前まで	5回以内※1	イミノクタジナルベシル酸塩※1	F:M7
オキシラン水和剤	500～600倍	収穫3日前まで	9回以内※2	キャプタン・有機銅	F:M4・M1
キノンドーフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで	9回以内※2	有機銅	F:M1

※1 イミノクタジンを含む農薬の使用回数は5回以内（塗布剤は2回以内、液剤は1回以内）。

※2 有機銅を含む農薬の使用回数は12回以内（塗布は3回以内、散布は9回以内）。

※3 RACコードが同一のものは、作用点が同じなので連用を避ける。

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」、「農業環境指導センターホームページ」（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。



6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。
いつものチェック！ 農薬を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！